

京都からいいこと、いろいろ——

平成22年9月1日発行 月刊「茶の間」
第31巻4号(初秋号/通巻352号)
購読料1部94円(税・送料込み)
年4回発行(1・2・5・9月1日発行)
昭和56年1月7日第3種郵便物認可

茶の間の9

2010
初秋号

京都重陽の節句

【京の四季彩】



文化・芸事が華開いた
浪漫の地

京・島原

芸術の秋
この秋、
焼き物に出会う

みんなのおやつ
京都
ドーナツ便り

秋の夜長に
そっと灯したい
あかり

一杯のしあわせ
京都の
どんぶり

懐かしい香り漂う
レトロな
雑貨に夢中

●山村紅葉



和傘を透かして見る柔らかな光を
暮らしのあかりに託し、映し出す

古都里

京和傘日吉屋



【写真右】さまざまな大きさ、色、柄のシェードを組み合わせることで、空間に生き生きとした動きが生まれる。【写真上】2スチールとABSを組み合わせでデザインした新シリーズ「MOTO」。透過する光ではなく、光そのものがラインの間から漏れて揺れるさまが美しい。



和傘の形状をうまく生かしつつ、円筒型を成型し、その中に光を灯すことで、和傘を透かして見るのと同じような光の効果を生み出しました。和傘から照明。視点をちよつと変えてみる。そんな柔軟な発想から、世にも美しいあかりが生まれたのです。

和紙の色や柄によって、まったく異なる表情を見せるあかりたち。シェー

「和傘の需要が減っていく中で、なんとか伝統と技を生かし続けたいと考えていた時に、ふと和紙が透過する光の美しさを、照明として生かせないかと思っただけです」

和傘を太陽に向けてはっと開いた時、光が和紙を透かして優しく差し込み、さらに繊細に組まれた竹の構造が、幾何学的な美しさをもたらす。

江戸期から続く和傘の老舗「日吉屋」の五代目当主、西堀耕太郎さんが、和傘独特の光の世界をもっと多くの人に知ってもらいたいと手掛けたのが、照明シリーズ『古都里』です。



1. 「伝統とは革新の連続」と考える西堀さんの柔軟な発想から、美しいあかりが生まれた。2. 折り畳んでコンパクトに収納できるシェード。付属器具や電球もセットされているのでそのまますぐに使える。19,000円～。



【住所】京都市上京区寺之内通堀川東入百々町 546
 【電話】075-441-6644
 【営業時間】10:00～17:00
 【定休日】無休
 【HP】<http://www.wagasa.com>

ドは取り外し可能で、折り畳んでコンパクトに収納できるデザインなので、季節によって色や柄などさまざまに着替えを楽しむことができます。グッドデザイン賞や新日本様式百選に選ばれたほか、ドイツデザイン賞など海外でも、その優れたデザインが認められています。

伝統に裏打ちされた新しいかたちの様美。和傘から美しく花開いたあかりを身近において、愛でてみてはいかがでしょうか。